

組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」 次年度へ向けて3学期にできることを考える

西部教育局 お役立ち情報 令和7年2月号

3学期は、今年度の取組を見直し、次年度の取組を考えていく時期です。

Óo.

4月から長欠の生徒は どれくらい増えているのかな?

昨年度と比べると どう変化しているのかな?

不登校の生徒は、どのような 関係機関とつながっているのかな?



自分の学級や学年の様子は わかるけど、学校全体では どうなっているのかな?

次年度へ向けて(取組例)

○生徒指導事案の対応について

- ・「学校評価アンケート」などを参考にして、いじめ、不登校、 問題行動等に対して適切な対応ができていたか振り返る。
- 修正が必要な場合は具体的な改善策を考える。
- (例)「誰が」「いつ」「何を」「どうする」、報告ルートの確認

◎校内の「いじめ防止基本方針」について

- ・いじめの定義や重大事態に対する対応について見直す。
- ・改善点を明確にし、加筆・修正を行う。
- ・「学校評価アンケート」や「生活アンケート」などを把握し、 児童生徒の実態を全教職員で共有する。

生徒指導提要も参考にしてください →

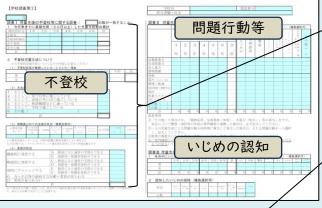
◎不登校対策につながる 発達支持的生徒指導について

- ・学習のルールや集団生活のマナーついて、児童生徒と ともに考える場や時間を計画する。
 - (例)学級活動などの年間指導計画に位置付け
- ・児童生徒が「わかった」「できた」という達成感を実感 できる授業づくりに向けた取組を明確化する。
 - (例)校内研究を通して成果と課題を分析
- ・児童生徒の自発的・自治的な活動を取り入れた取組を 計画・立案する。
 - (例)委員会活動や行事等

など

今年度の生徒指導の成果と課題を話し合う際に、毎月の状況を報告している月例報告のデータを 活用してみませんか?

月例報告から分かること





具体的な活用例

★不登校児童生徒の分析をする(昨年との比較)

【例:中学校の不登校の数から】

令和5年度 合計10名 令和6年度 合計13名



3名の増となっているが 内訳を見てみると・・・

新規なし")

〈内訳〉(継続、新規に着目)

R5年度 R6年度 ·3年生2名 (卒業)

新規は5名

3年生3名(継続3名 •2年生4名 2年生6名

· | 年生4名 → 2年生6名 (継続3名 / 新規3名) (6年生3名) → | 年生4名 (継続2名 / 新規2名)

11名

継続は8名

学年や個人について経年での変化を追う

令和5年度に不登校であった生徒のうち、3人は 復帰もしくは欠席が29日以下になっているな。 何がきっかけになったのだろう。





月ごとの状況を確認し、その時の対応や支援を振り返る

新規の不登校生徒が5人いるけど、休み始めの 対応はどうだったのだろう。未然防止のために何が できるかな。生徒指導提要で確認してみよう。





今年度の生徒指導のまとめとして、情報を共有しましょう。月ごとや経年で比較し、学校や 学年の傾向の把握や対応の振り返りをすることで、次年度へ向けての具体的な取組を考えて いきましょう。